

公表

## 事業所における自己評価結果(児童発達支援)

事業所名	ののほな港南			公表日	2026年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点/課題や改善点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	2	1	活動内容に応じて空間を使い分け、子どもたちが落ち着いて過ごせる環境づくりを行っています。動線や配置にも配慮し、安心して活動できる空間を整えています。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13	1		子どもの特性や支援の必要度に応じて職員配置を調整し、適切な支援が行える体制を整えています。今後も状況に応じた体制づくりを継続していきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	1		活動ごとにスペースを分けることで、子どもが見通しを持って行動できる環境づくりを行っています。視覚的な支援やバリアフリー環境を整え、安心して過ごせるよう配慮しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	1		日々の清掃や消毒を徹底し、清潔で安心して過ごせる環境を維持しています。整理整頓を意識し、子どもたちが活動しやすい空間づくりを行っています。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14			子どもの状況に応じて、落ち着いて過ごせるスペースや個別対応ができる環境を整えています。安心して気持ちを整えられるよう配慮しています。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14			全体ミーティングやチームミーティングなど日々の情報共有を通じて、支援の振り返りと改善を行っています。状況に応じて柔軟に対応しながら、より良い支援につなげています。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	2		保護者アンケートを通じて意見を把握し、支援内容や運営の改善に活かしています。今後も意見を反映できる仕組みを継続していきます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14			定期的な会議や日々の共有だけでなく、フォローアップ面談などを通じて職員の意見を取り入れ、支援の改善につなげています。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	8 (今後検討)	外部評価については今後の導入を検討しており、客観的な視点を取り入れた運営につなげていきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14			外部研修やオンライン研修を活用し、職員の知識や技術の向上に取り組んでいます。
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14			支援プログラムを公開し、内容が分かりやすく伝わるようにしています。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14			アセスメントや日々の観察をもとに、子どもの特性やニーズを把握し、支援に反映しています。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14			関係職員が情報を共有しながら、子どもの状況に応じた支援計画を検討しています。
	14 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14			支援計画は職員間で共有し、日々の支援に一貫性を持たせています。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14			日常の様子を観察しながら、子どもの変化に応じた支援の見直しを行っています。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			標準化されたアセスメントツールや日々の行動観察を活用し、子どもの発達段階や興味関心に応じた具体的な支援目標を設定しています。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14			児童発達支援・放課後等デイサービスそれぞれの軸になる職員を決め、毎月バランスのよい立案内容になるようにチームで調整を行っています。今後も専門職の意見も取り入れながら、ののほな全体で質を高められるように努めます。

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14			どの曜日を利用していても様々な体験をしていただけるように、1ヶ月のプログラムを立案しています。また、毎月季節や行事に合わせたイベントを計画し、子どもたちが楽しく利用できるよう工夫を行うとともに、年間を通じて変化のあるプログラムを提供できるように調整をおこなっています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14			子どもの状況や発達段階に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。それぞれの活動の目的を意識しながら、無理のない形で経験を積めるよう配慮しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14			支援開始前に職員間で内容や役割を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整えています。参加できない職員にも情報が伝わるよう工夫し、チームとしての支援の質を維持しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	1	1 (翌日に持ち越し)	支援後には振り返りを行い、気づいた点や改善点を職員間で共有しています。共有方法を工夫しながら、継続的に支援の質向上につなげています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	1		日々の支援内容や子どもの様子を記録し、支援の見直しや改善に活用しています。記録を通じて、より適切な支援が継続できるよう取り組んでいます。
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14			必ず保護者と面談をおこない、個別支援計画の見直しをおこなっています。また、個別支援計画が期限内であっても、保護者からの依頼や見直しの必要性を感じた場合には更新をおこなっています。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14			関係機関との会議には、子どもの状況を理解している職員が参加し、支援内容の共有を行っています。多角的な視点を取り入れながら、支援の質向上につなげています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13		1	医療・福祉・教育機関と連携しながら、子どもにとって適切な支援が行える体制を整えています。情報共有を通じて、支援の一貫性を保つことを大切にしています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14			児童発達支援と保育所・幼稚園等の併行利用を希望する家庭に対し、スケジュール調整や必要なサポートを行い、利用しやすい環境を整えています。必要に応じて併行利用先と支援の方向性をすり合わせたり、支援内容が矛盾しないよう情報共有を図ることで、安定した支援を受けられるよう努めています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14			就学に向けて必要な情報共有を行い、スムーズな移行につながるよう支援しています。学校との連携を意識しながら取り組んでいます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。	12	1	1	地域の児童発達支援センターや関係機関と連携し、必要に応じて助言や情報共有を行っています。支援に迷うケースについても外部の視点を取り入れながら、より適切な対応につなげています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	8	1 (現在は挨拶のみの交流)	地域との関わりについては、子どもの状況や安全面に配慮しながら、段階的に取り入れていきます。今後は公園活動や他事業所との交流など、無理のない形で経験の幅を広げていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	1		日頃から保護者と積極的にコミュニケーションを図り、こどもの様子や発達の状況、課題などを共有を行っています。定期的な面談やHUGでの情報交換を通じ、保護者との間に共通理解を深め、協力的な支援がおこなえるようチーム全体で意識しています。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	5	3 (実施検討中)	保護者会を実施いたします。(年明けに実施予定でしたが、感染症の流行により中止となってしまいました) 活動報告・保護者同士の交流・プログラムの体験・情報交換の他に、いずれは二エースに合った学習会やペアレントトレーニングなども提供していけるように準備を進めています。	
保護者へ	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14			契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等の説明を行い、不明な点があれば随時質問をできる体制を整えています。また、保護者が相談しやすい環境づくりを行い、必要に応じて助言や情報提供を行っています。今後は保護者会や勉強会の実施を通じて、支援の幅を広げていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14			個別支援計画を作成する際には、必ず保護者との面談を実施し、子どもの発達状況や支援の希望を確認しています。家庭での様子や困りごと、保護者の考えを丁寧に聞き取り、計画に反映することで、子どもにとって最適な支援を提供しています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14			個別支援計画の作成後、児童発達支援管理責任者が再度保護者の方と読み合わせを行い、内容の確認をさせていただいています。場合によっては、保護者の意向や家庭での状況を丁寧に確認し、内容に反映しています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14			希望者に対し、随時個別面談を実施することができる体制を整えています。個別支援計画の見直しの際にも、保護者の意向を確認しながら支援内容を調整しています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	3	3 (今後行う)	年明けに実施予定でしたが、感染症の流行により中止となってしまいました。参加希望の保護者がとても多く、ニーズを感じております。より良い機会を提供するために、開催予定の再調整中です。

の 説 明 等	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14			子どもや保護者からの相談や申し入れに対応するための担当者を明確にし、相談窓口や手順についても契約時に周知しています。相談があった際には迅速かつ適切に対応できる体制が整っています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14			子どもの活動の様子をよりリアルに感じられるよう、毎日の連絡帳システムやSNSを活用して写真付きで日々の取り組みを紹介しています（※プライバシーに配慮し、許可を得た範囲で発信しております）
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14			個人情報管理の意識は職員間で共有されており、社用携帯・PCの鍵付き書庫での管理や台帳記入も行っていきます。個人情報の取り扱いに関する研修、マニュアルの整備をさらに強化し、より適切で安全な管理を徹底していきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14			言葉での理解が難しいお子さんには、絵カードやジェスチャーを活用し、活動内容をわかりやすく伝えていきます。言葉による表現が難しい子どもには、ハンドサインやタブレット端末、コミュニケーションシート等を活用し、意思表示のサポートを行います。日々の子どもの様子を連絡帳システムを活用して伝え、保護者が負担なく情報を得られるよう配慮しています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	4	1 (慎重に検討中)	他の事業所も呼び、大きな夏祭りを実施しました。地域住人の招待は難しかったのですが、改善案を元にきょうだいの招待など、少しずつ拡大できるように検討をおこなっています。
非 常 時 等 の 対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14			各種マニュアルの策定を行い、職員が閲覧できるようにファイリングを行っています。周知徹底を行い、様々な想定した訓練を定期的かつ計画的に実施することで、安心・安全な支援環境の整備に取り組みます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	1		災害や感染症などの緊急事態発生時にも事業を継続できるよう、BCPを策定しています。計画には、緊急時の対応手順や役割分担、代替支援体制の確保などを明記し、職員全員が理解しやすい形にしています。職員が閲覧できるようにファイリングを行っています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13	1		日常的に服薬状況やアレルギー、発作の有無など、子どもの健康状態について保護者から確実に情報収集し、職員間で共有し連絡帳システムの個人欄に随時追記しています。活動中にも子どもの状態変化に迅速に対応できるよう体制を整えています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13		1	契約時に聞き取りを行い、食物アレルギーのある児童の場合は追加の書類の記入をお願いしています。投薬の順序や持参有無など、誰が見ても対応することができる体制を整えています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13		1	年間安全計画を作成し、研修や訓練を行っています。安全点検リストに基づき、3か月に1回事業所全体の安全点検を行います。安全管理のさらなる向上のため、全職員で対応していきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13		1	事業所としての安全計画を策定し、契約時に保護者へ説明を行っています。また、重要な変更があった場合には、速やかに保護者へ情報提供を行う体制を整えています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14			職員が気付いたヒヤリハット事例を迅速に報告できるよう、簡易記録シートを活用して情報を収集しています。より報告しやすい環境を整えることで、現場での気付きが適切に記録されるよう努めています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14			年に1回以上、虐待防止に関する研修を実施し、虐待の兆候の早期発見や適切な対応について職員全体で学ぶ機会を確保しています。管理者研修などの情報も全職員に共有をおこなっています。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		1	当事業所では、原則として身体拘束を行わない方針を徹底しています。やむを得ず身体拘束を行う必要がある場合（例：子ども自身や他者の生命・身体に重大な危険が及ぶ緊急時）を想定して、契約時に説明し了解を得ています。適切な手順を踏んで対応するよう、組織として方針を明確にしています。	